

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 23 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24792498

研究課題名(和文)境界性パーソナリティ障害患者がいる家族に対する家族支援モデルの開発

研究課題名(英文)Development of family nursing model for families having a member with borderline personality disorder

研究代表者

西元 康世 (Yasuo, Nishimoto)

神戸大学・保健学研究科・助教

研究者番号：60458015

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：境界性パーソナリティ障害(BPD)患者がいる家族の家族機能を明らかにし、家族支援モデルを開発することを本研究の目的とした。BPD患者がいる家族1家族と大学生がいる家族26家族に対して家族機能尺度である家族環境評価尺度(SFE)を用いた質問紙調査を実施した。さらに、BPD患者がいる家族と看護職者16名を対象とした半構造化面接調査を実施した。BPD患者がいる家族の家族機能は大学生がいる家族と比較して低く、家族支援の必要性が示唆された。看護職者は、家族支援としての認識が十分でないまま家族支援を実施しているため、看護職者が家族支援をしているという自覚をもつことを基盤とする家族支援モデルの試案を開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the family functioning of families having a member with borderline personality disorder (BPD) and to develop a family nursing model for them. A questionnaire survey was conducted using the Survey of Family Environment (SFE) consisting of 30 items in four areas and using data collected from a family having a member with BPD. Semi-structured interviews were conducted among 16 nurses who had provided care to patients with BPD. Data obtained from the interviews were qualitatively analyzed using a modified grounded theory approach. The family functioning of families having a member with BPD was lower than that having a university student. The need for family nursing has been suggested to these families. Nurses need to recognize that they are supporting the family, which was identified as a core category. The family nursing model based on to realize that for nurses it was family nursing was developed.

研究分野：医歯薬学

キーワード：家族支援 家族看護 境界性パーソナリティ障害 家族機能 家族同心球環境モデル 家族環境評価尺度

1. 研究開始当初の背景

境界性パーソナリティ障害 (BPD) は、対人関係、自己像、感情などの不安定および著しい衝動性の広汎な様式で成人期早期に始まり、種々の状況で明らかになるものとされる (DSM-IV-TR, 2002)。症状の特徴として激しく上下に揺れ動く不安定な感情をもつため、他者に対して依存と攻撃が繰り返され、慢性的な空虚感や孤独感をもっており、その感情に耐えられなくなると自傷行為や大量飲酒等を起こす。また、見捨てられることに強い不安を抱き、自殺をほのめかしてでも相手をつなぎ止めようとし、リストカットやオーバードーズなどの自己破壊的な衝動行為や浪費、性的逸脱などがみられる。BPD の患者は本人が困って受診するというより、家族が本人の問題行動に困り受診する場合がほとんどである。この障害は、家族や親しい人を巻き込むため家族全体の支援が必要になり、そうしたアプローチが現実的で理にかなっているとされている (中村, 2010)。一般人口における境界性パーソナリティ障害の頻度は、0.7~2.0%といわれ (Coid J, The British Journal of Psychiatry, 2003) ているが、精神科患者における BPD の比率はさらに高く、入院患者の 20~60%、外来患者の 11~34%とも言われており、精神科医療の現場で BPD 患者とその家族と関わる機会は少なくはない。1980 年代に以前は境界例と呼ばれていたものが BPD として考えられるようになり、2008 年に治療ガイドラインが作成されているが、治療法が確立しているとは言いがたく、精神科医療従事者が当たり前のように治療を担当する疾患とはなり得ていない (白波瀬, 2010)。絶対的な治療方法が確立されていない以上、患者の状態に応じて有効であるとされる治療を組み合わせ、複数の臨床家がかかわるチーム医療が有効とされている。一方、BPD 患者とその家族に対する看護においてもその方法は確立されておらず、さらに、BPD 患者の看護経験を有する多くの看護職者が BPD 患者の看護は難しいという観念を持っており、このようなチーム医療を効果的に行うためにも患者を含めた家族システムユニットに対する家族支援モデルの開発が急務である。

2. 研究の目的

家族看護学において法橋の提唱する家族同心球環境モデルを基盤に家族をとらえ、家族看護の視点から BPD 患者のいる家族に対する看護が必要となる家族の状態 (家族症候) を明らかにし、家族支援モデル開発への示唆を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、まず最初に、国内外の文献検討から BPD 患者がいる家族の家族機能と家族支援を明らかにする。次に、BPD 患者がいる家

族の家族機能を質問紙調査による量的研究と半構造化面接による質的研究により明らかにする。BPD 患者がいる家族の比較対象として、大学生がいる家族を対象として質問紙調査を実施する。さらに、看護職者を対象とした半構造化面接調査を実施し、データから、看護職者が実施する BPD 患者がいる家族への家族支援プロセスを明らかにする。これらの成果を統合し、BPD 患者家族がいる家族に対する家族支援モデルを開発する。

4. 研究成果

BPD 患者がいる家族 1 家族と大学生がいる家族 26 家族に対して家族機能尺度である家族環境評価尺度 (SFE) 用いた質問紙調査を実施した。さらに、BPD 患者がいる家族には、約 120 分の半構造化面接調査を実施した。BPD 患者がいる家族の家族機能は大学生がいる家族と比較して低く、特に家族内外の関係性について、多大な困難を抱えている現状が明らかになった。これらより、BPD 患者がいる家族への家族支援の必要性が示唆された。平成 24 年度から 25 年度に実施した文献検討からも、わが国で BPD 患者がいる家族は家族機能が低い傾向にあり、その家族症候として、家族の逸脱現象の派生、家族内外の対人関係障害、家族システムストレスへの不適応、家族の拘束的ビリーフの存在、家族のセルフケア力の低下、家族インターフェイス膜の調整不全、家族の社会的孤立などが存在することが明らかになり、これらの家族に対して、表 1 のような家族の関係性の調整や家族役割の調整、家族の問題解決能力の強化といった家族支援が実施されていた。

このように、家族支援は、実施されてはいるものの、BPD 患者がいる家族への看護職者が実施する家族支援としては確立されておらず、その現状と課題を明らかにするために、BPD 患者がいる家族への家族支援について、看護職者 16 名への半構造化面接調査を実施した。修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した結果、26 の概念、7 つのカテゴリー、1 つのコアカテゴリーが生成された (図 1)。BPD 患者がいる家族への家族支援プロセスが進みづらくなる要因の根底には「家族を支援している」という認識が十分でないまま実施される家族支援があり、実施している「【家族支援の実施】」を看護実践として捉えることが最重要であると考えられる。また、「【家族支援の実施】」に直接影響を及ぼすのは、「【家族支援の必要性の判断、迷い】」であり、「家族支援の前提となる認識」と「多様な家族の姿の認識」によって判断されることから、この段階で必要性を判断できることが前提条件となろう。しかし、それらには、「家族支援をするなかでの相反する思い」や「家族支援をするなかでの困難を伴う経験」が影響し、看護職者が家族支援に積極的に踏み込むのを躊躇する場

合のあることが結果として明らかにされた。これらへの肯定的な意味づけをし、〈看護職者としての対処〉をさらに充実させることで、BPD 患者がいる家族への家族支援プロセスは促進されるのではないかと考える。さらに、このプロセスが順調に進むことは、現在あえて行わない場合もある家族支援であるが、より実施されることにつながり、BPD 患者がいる家族の生活の質の向上をもたらすのでは

ないかと考える。よって、コアカテゴリーとして抽出された《家族を支援しているという認識が十分でないまま実施される家族支援》という現状について、看護職者が家族を支援しているという認識を自覚できることが最重要課題であることが示唆された。以上の結果を統合し、BPD 患者がいる家族に対する家族支援モデルが開発された。

表 1 家族環境支援モデルに基づいた BPD 患者がいる家族に対する家族支援内容の分類

家族内部環境支援	家族システムユニット支援	家族外部環境支援
治療・療法的支援	治療・療法的支援	社会資源利用促進
患者への症状コントロール環境調整支援	家族関係調整支援	社会資源関係調整
患者への症状コントロール能力向上支援	家族役割調整支援	症状コントロール環境調整支援
患者への情緒的支援	家族問題解決力強化支援	啓発・制度整備支援
患者への知識・情報提供支援		家族外部関係者への情緒的支援
他の家族員への情緒的支援		家族外部関係者への知識・情報提供支援
他の家族員への知識・情報提供支援		家族外部関係者に対する患者への対応力向上支援
他の家族員に対する患者への対応力強化		

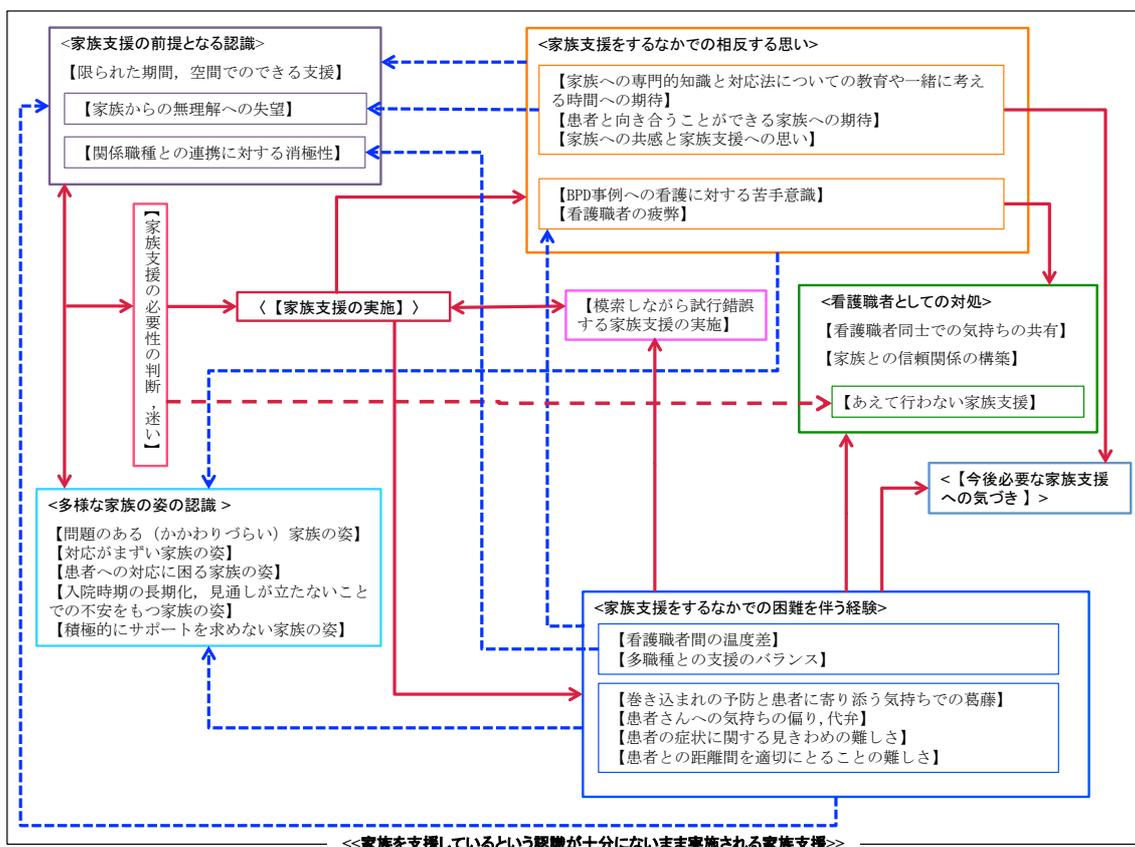


図 1 BPD 患者家族がいる家族に対する家族支援プロセス

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

1) The Process of Support by Nursing Professionals for Families Having a Member with Borderline Personality Disorder, Yasuyo Nishimoto, Naohiro Hohashi, Open Journal of Nursing, 6, 24-36, 2016
<http://dx.doi.org/10.4236/ojn.2016.61003>

[学会発表] (計6件)

1) 家族環境評価尺度 (SFE) を用いた大学生がいる家族の家族機能の評価, 西元康世, 水本菜摘, 法橋尚宏, 日本家族看護学会第22回学術集会, 2015年9月5日, 神奈川, 小田原

2) Assessment of Family Functioning of a Family with a Borderline Personality Disorder Patient: Need for Family Nursing, Yasuyo Nishimoto, Naohiro Hohashi, 12th International Family Nursing Conference, 2015年8月18-21日, Odense, Denmark

3) Families of patients with borderline personality disorder in Japan: Family signs/symptoms and classification based on the family environment intervention model, Yasuyo Nishimoto, Naohiro Hohashi, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), 2015年2月6日, Taipei, Taiwan (China)

4) Literature review on care for families of patients with BPD outside Japan, Yasuyo Nishimoto, Naohiro Hohashi, 35th International Association for Human Caring Conference, 2014年5月24日, Kyoto, Japan

5) Issues and trends in family nursing research in Japan: A domestic literature review on family support for and family functioning of the families of patients with borderline personality disorder: BPD patient, Yasuyo Nishimoto, Naohiro Hohashi, The 3rd World Academy of Nursing Science, 2013年10月18日, Seoul, Korea

6) 境界性パーソナリティ障害 (BPD) 患者がいる家族に対する家族支援と家族機能に関する国内文献検討, 西元康世, 法橋尚宏, 第32回日本看護科学学会学術集会, 2012年11月30日, 東京都, 千代田区

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西元康世 (NISHIMOTO, Yasuyo)
神戸大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号: 60458015

(2) 研究協力者

法橋尚宏 (HOHASHI, Naohiro)
神戸大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号: 60251229